

平成28年第7回東大和市議会建設環境委員会記録

平成28年10月25日（火曜日）

出席委員（7名）

委員長	佐竹康彦君	副委員長	根岸聡彦君
委員	森田真一君	委員	実川圭子君
委員	関田貢君	委員	関田正民君
委員	木戸岡秀彦君		

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴木尚君	事務局次長	長島孝夫君
議事係長	尾崎潔君	主任	櫻井直子君
主事	須藤孝桜君		

出席説明員（なし）

会議に付した案件

- （1）閉会中の特定事件調査（行政視察）について
- （2）所管事務調査の進め方について

午前 9時35分 開議

○委員長（佐竹康彦君） ただいまから平成28年第7回東大和市議会建設環境委員会を開会いたします。

○委員長（佐竹康彦君） 初めに、閉会中の特定事件調査（行政視察）について、本件を議題に供します。

本件につきましては、10月5日から7日にかけて、熊本県熊本市、熊本市新西部環境工場整備及び運営事業について、熊本県天草市、天草宝島人材育成事業について、天草市起業創業・中小企業支援センター（アマビズ）について、福岡県久留米市、くるめエコ・パートナー事業についてを視察いたしました。

本日は、委員の皆様から視察内容について、視察先ごとに順に御意見、御感想等を御発言いただきたいと思っております。

まず、初めに、前回の委員会で決定いたしました所管事務調査、市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについてに関連した視察先である熊本県天草市での視察内容について、御意見、御感想等を御発言いただきたいというふうに思います。

天草市におきましては、まず天草市起業創業・中小企業支援センター（アマビズ）について、御意見、御感想等を何点かにわたっていただければというふうに思います。

まず、センター設置の経緯に関しましての意見、御感想を伺いたいというふうに思います。

このセンターの設置につきましては、天草市におきまして、中小企業支援による雇用の確保の問題、また企業誘致がなかなか見込めない、こういった天草市の事情がございました。また、大変広い自然環境豊かなこの天草市の環境を生かした第6次産業化の課題、また市の職員が研修等を通じて f - B i z を参照とした取り組みを開始したこと、また市町村合併によります市内数カ所ございます商工会議所との関係性、また連携、また地元金融機関との連携について、またこのセンターの目標設定ですね、売り上げのアップのこと、また事業者のやる気を起こす、こういった目標設定をしてセンターを設置するに至った、さまざまなことを行政視察で学ばせていただいたかというふうに思います。これ以外にもさまざまな御関心のある点あったかというふうに思います。

まずは、このセンター設置の経緯に関しての御意見、御感想等がございましたら御発言いただきたいと思っております。

何かございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 私はお話を聞かせていただいて、若い担当者の方が非常に熱心にこの問題を捉えて、この事業を新規に起こされたということにいたく感心をいたしました。特に課長さんたちが勉強会、全国で開かれているところで、これをどう地元を生かしていくのかということも正確に捉えて独自に展開しているところも後でもまた意見を言わせていただきますけど、展開しているところに非常に注目をいたしました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見ございませんか。

○委員（関田 貢君） 私は今森田委員が言ったように、職員が若いということが魅力です。

そして、僕はこの天草の場合は雇用創出で産業振興基金の取り扱い、補助金のあり方が変化を与えたというふうに私は見てます。産業振興事業の県のふるさと雇用再生特別基金が平成23年に廃止になったということが大きなインパクトを与えて、次の事業にこのかわりが出てったのかなど。そして、商品開発等の補助金とか雇用促進補助金事業が市の基金からそういうことを引き出したという、その基金のつくり方が、県の補助金がなくなってそれを代替を求めたということが、さっきの雇用とか新しい事業に新職員の若い層がそこへ重なっ

ていって、この事業が天草の場合ほうまくセンターをつくった意義があるのかなというふうには感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見等ございませんか。

○委員（木戸岡秀彦君） 私も今回の視察をしてすごく感じたんですけども、先ほど関田委員もおっしゃってましたけども、やっぱり若い人の柔軟性だと思うんですね。やはりどちらかというと年とともに頭がかたくなってしまいう部分というよりも、そういった面での企業が6,000社から767社も減ってるという部分だとか、従業員が3,400名ほど減ってるという危機感が、そういった担当者のやはりこれからどうするんだっていうものが、知恵が出てきてるんじゃないかなっていうことをすごく感じました。

それと、天草の資源を活用したっていうことで、そういったものがうまく生かしているなというのを感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） 私はこの事業がもともと天草市の総合計画の中で日本の宝島というような構想があって、それを実現するためにはこういう手法が必要なんだということを学んで、それを取り入れたというところが非常に参考になりまして、やはりそういう計画を実現するためにどうするんだという方法をしっかり根底に持つてっていうことが本当に推進していくための力になっているんだなっていうのは非常に感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見ございますか。

○委員（根岸聡彦君） 地域の特性ということもあるんですけども、いわゆる過疎化が進んでいる環境の中で非常に危機感を持っていたというところで、地域おこしの一つの手法ということでこの f-Biz を参考にしていこうといったものを考え出したというところ、またいろんな起業塾を立ち上げるということでいろんなノウハウが必要だと思うんですが、それに携わる方がいろいろと研究をされて、相談に来られる方々に親身に対応していたという、そういった実績があるというところが非常に感銘を受けたというか、そういう感じですね。

○委員長（佐竹康彦君） ほかにこのセンターの設置の経緯に関しての御意見、御感想等、ほかにございますでしょうか。

なければ次の点につきましての御意見、御感想をお願いしたいと思います。

次は、センターの業務に関する詳細についての御意見、御感想をいただければなというふうに思います。

このセンターが運営されるに当たって、また、例えば人員の配置、IT関連やフードなどの非常勤アドバイザーを充実させているという点、また、この事業応援に関しまして、聞く、見つける、提案する、伴走する、こういったサイクルでこの事業支援に取り組んでいるということ、また、起業家、新しく仕事を起こすほうの起業家でございますけれども、起業家の支援ですとか、また、中小企業者の売り上げアップ支援、また、さまざまな具体的な支援のことも事例として学ばせていただきました。また、強みをつくるということのビジネスサポート、また、今御意見等の中にもございました相談者と伴走する姿勢、また、この運営に関しまして、産業支援機関、行政、商工会、金融機関との職員の方のスキルアップも図られていった、こういった内容が細かい業務運営の説明の中であったかというふうに思います。

先方からいただいた資料等も参考にされながら、このセンターの業務に関しましての御意見、御感想等いただければなというふうに思います。

いかがでございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） センターの業務というところですけども、起業家というのは経営者になるわけですけども、経営者というのはやっぱり孤独なんですね。そういった孤独感にさいなまれて、せっかく起業したけれども長続きせずにやめてしまうというようなケースが非常に多いというふうには聞いておりますけれども、こちらのほうでやっぱり相談者と伴走する姿勢があるということは、起業した方、経営者の方々が相談しやすい環境を常に整えているというところ、そして、その相談者と伴走する姿勢が常に備わっている、そういった経営者のための事業を継続していく土壌ができて上がっているなという、そういった感じを持ちました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 私は特にお話を伺っていて、宝島起業塾、これに非常にお話を伺っていて注目をしたところですよ。高校生を対象に起業塾を設けてるっていうお話でしたけれども、よく地方の姿というのは何年後かの東京の姿だなんていうお話がありますけれども、我が市でも来年あたりから、人口ビジョンでいいますと人口が減っていくというような話もある中で、地元で根差して若い人たちが定着してもらおうということを仕事の観点から長いスパンで取り組んでいくということは非常に大事ですし、ともすると東京にいますと、ちょっとそのことを忘れてしまいがちですし、たまたまこの東大和の場合は、三多摩ですとか、ごく近くで働いて暮らしてるって方も多いいもんですから、何となくそこに安住という言い方もおかしいんですけども、これがずっと続いていくんだろかなんていうふうに、言ってみれば甘く考えているところも自分の中にあるのかなというふうに思ったんですが、やっぱりこれを見てそういう足の長い取り組みが必要なんだなってことを改めて学ばされたような気がいたしました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

その点につきましては、また後ほど起業塾のことについては……（「では次も」と呼ぶ者あり）

いや、いいんです、いいんです。ぜひともまた改めて御発言もいただければなというふうに。

そのほかに何か御意見等、御感想ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） この聞く、見つける、提案する、伴走するっていうそのサイクルっていうのが非常に聞き放しじゃなく、また、きつと相談があったことに対して、また、こういうことが地域の課題なんだということで、それがまたAm a - b i Zの中でも生かされて、どういうメニューがあるといっているようなことでうまくサイクルが回っているなというふうに感じました。聞いたら聞き放しとかではなく次につなげていくというのが、相談した方もそうですけれども、Am a - b i Zの中でもすごく発展していったんだというのが非常に力を感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見。

○委員（関田 貢君） 僕はセンターの最大の目標であるっていうのは、相談者の売り上げアップとかを図るために、相談者のセールスポイントを見出す、やる気を起こすというその教育が、この京都大学、そういうところで大学院の先生を講師に招いて、そういう連携が23年だかな、あって、そういう長年の蓄積がこういういろんな設置して、センターで何をしなきゃいけない。

そして、僕はこのときに感じたのは、センターの運営に当たっては合併、合併ってこういうふうに来ている市が、本土の商工会議所が2つの会議所がありましたね。そういう会議所が競って、それが一つに統一しないで、島の事情で商工会のそういう合併の歴史の中で一つの競争精神が生まれる、そういういいところの競争がそういう京都大学の先生の村おこしの話にセンター的な役割が大きく寄与したのかなど。そして、いろんな補助金のあり方、そういうものを使ってそれぞれの企業に売り上げをアップするための指導法、それで、地元の

恵まれたそういういろんな遺産物を商品化するという、そういうことに若い人にそういう教育を施していくという姿が非常に僕はよかった。こういう姿勢が非常にまちおこしには必要なかなと感じました。

○委員（森田真一君） ちょっと発言する順番を工夫したほうがよかったかなと思います。済みません。

私、向こうでいただいた資料を見て意外だったのは、ああいう天草の自然豊かなところなので農林水産業が割と中心になってまちおこしてことになるのかなと思ってたんですが、いただいた資料ですと小売サービス、飲食でほぼ過半を占めているっていう、こういう資料がありましたんで、そういう意味でいうと、あの土地柄だから当たったっていうよりもむしろどこでも普遍性があるんだっていう、そういうふうな見方をしたほうがいいのかっていうふうに思いましたし、たまたまこの場合は中小企業大学校やまた市の起業塾も既に始まってますんで、改めて全く何かこれをそのまま移植してってことではないとは思いますが、この観点は非常に重要なんだなというふうに思いました。

以上です。

○委員（木戸岡秀彦君） 私は特に感じたのは、相談件数が、行った先でもお話ししましたが、相談件数が多いっていうことは、あとはまたリピート率がすごく多いというのがすごく私はすごい気になったんですけども、それはAm a - b i Zのスタッフが教育がしっかりされているのではないかなというのをすごく感じました。そういった意味でのアドバイスに対して、本当にやる気を起こさせているなっていうものを感じます。というのは、新規創業30件になってるということ自体が、それにつながっているのかなという思いも感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

ないようですので、続いての点についてちょっと論点移りたいというふうに思います。

センターの成果に関しまして、さまざまな具体的な事例、お手元の先方からいただいた資料等にも掲載されておりますが、さまざまな成果の事例についても学ばせていただきました。センターの具体的な成果についての御意見、御感想、改めて伺いたいというふうに思います。

各事業者、先ほどお話もございましたけれども、小売、飲食、また製造業等、また農林水産業等、さまざまな成果が載っておりますけれども、これらの成果、また各種取り組みについて視察を通して、何か御意見、御感想等があれば伺いたいというふうに思います。

○委員（根岸聡彦君） いろいろなAm a - b i Zレポートの中で成功している事例、あるいは相談事例が幾つも載っております。先方の御説明の中では、かなりのウエートを占めていたのが、やはり起業家さんのほうで情報発信力が不足しているというところに焦点を当てて、こういう形で情報発信をしていったらどうですかというアドバイスをされて、それが功を奏したというケースが多く説明をされておりました。

これはちょっと私の反省点なんですけれども、じゃ、情報発信以外で何か成功をおさめたケースってどんなことがあったかなとか、それから、特にここに載らない、相談が千六百何件もあるわけですから、当然のことながらうまくいかなかったケースというのもあると思うので、失敗から学ぶということではないんですが、何かこういうことをやって失敗してしまった、こういうふうにやらなければよかったというようなことも聞けていればよかったかなっていうこれは私の反省です。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） 行政がやるもので、個々の事例を取り上げるというのはなかなか消極的なところがうちの市なんかもあると思うんですけども、実際に一つの事例でこうなったっていうのがわかると、やっぱりそれが相乗効果になってうちも頑張ろうっていうようなことにもなるし、あそこに行ってみようということにもなると思いますので、やはりそういうところはこういう形で成果を発表していくっていうのは非常にいいんじゃないかなというふうに思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

もしないようでしたら、最後にその他、私のほうで用意させていただきましたのが、センター設置の経緯に関する事、業務の詳細に関する事、またこのセンターの成果についての御感想等、この3点、今お伺いしましたけれども、そのほか、各委員の皆様の中で、このAm a - b i Zに関しまして全体を通して何かお気づきの点、また御意見、御感想等がありましたらぜひ御発言いただきたいと思いますがいかがでございましょうか。

○委員（関田 貢君） 天草が取り上げたときには、モデルとしたのが国も注目してるっていうこの報告書にも載ってますけども、産業支援の確かな実績を残してる富士市の産業支援センターのf - B i zのものをまねして、コンセプトは1社100人の企業誘致よりも、地元100社100人の雇用、この方針による産業振興策に本市も取り組むことを決定したという、こういう取り上げ方が僕は非常によかったんだろうというふう思います。やっぱり雇用から見て、自分のいろんなものをつくるといったときに、人を採ってくれ採ってくれっていうより、1社が100人の企業誘致をするっていうことより地元の企業が100社が100人の雇用をするという方法へ転換して、1人の力をこういうふうに倍々とうしてったっていう雇用促進につながるということの政策は、こういう事例のいいところを素直に取り入れて、自分のまちにさらに活性化したということがすばらしいんじゃないですかね。

以上です。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（木戸岡秀彦君） Am a - b i Zのレポートの一番最後に……。先日いただいた資料の中で天草の可能性ということで、1年たってこういう状況だということが書かれていますけれども、やっぱりその中で地産地消というものが、あと外に輸出、未来に投資ということで、よいものを再発見して商品の見える化をしているっていう。あとこれは東大和市にも一緒だと思うんだけど顧客のニーズに合った編集、買いやすい形にしていくっていう、こういうことってすごく大事だなということを感じました。

天草の場合は、かなり地産地消でさまざまな特産品をうまく生かした利用法が生かしてると思うんですけども、そういった面では当市でも何かいい意味で生かせるものができればなというのを感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） 当市では起業塾なども始めて、だんだんそういう視点ができてきたのかなと思いましたけれども、このAm a - b i Zのことを聞いたときに、新しく起業するっていうことではなくても今まで事業をしている方に対しての相談とか、これからもっと売り上げを伸ばすとかっていう、今ある企業の方に非常に寄り添ってるっていうところが当市でもそのあたり今後参考にしていけるのかなというふうに思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 私は天草という土地は初めて今回行かせていただくことができて、ああいう風光明媚な土地柄とはいえ、半島や島でほとんど構成されてて広い土地もないっていう中で、産業おこしをするって

いう困難さが多分あるんだと思うんですね。その中で、情報発信力を強化して広い商圈を確保してみたいな、そういう取り組み方ももちろんやっつけらっしゃると同時に、生活圏の中でしっかり根差した仕事をつくっていくってようなことも同時にいろいろ事例集なんか見せていただくと感じるところで、やっぱりそういう地に足ついた小規模企業基本法でしたっけ、なんかの考え方をよく取り入れてそしゃくしてらっしゃるといふ姿を非常に感じたところです。

以上です。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

なければ天草市起業創業・中小企業支援センターAm a - b i Zについての意見の聴取、これにつきましては終了させていただきます。

次に、同じく天草の行政視察でございました宝島起業塾について、これについて御意見、御感想等伺えればなというふうに思います。

先ほども委員の方からさまざま御意見出ましたけれども、重複しても結構でございますので、ぜひとも御意見いただければなというふうに思います。

この起業塾につきましてのまずは設立の目的と経緯についての御意見、御感想等を伺いたいと思います。

その目的としましては、人づくりについてというこういう視点について、また京都大学との連携のあり方等について、これらについて何か御意見、御感想等があればお伺いしたいというふうに思います。先ほどの御意見と重複しても結構でございますのでよろしくお願ひいたします。

○委員（木戸岡秀彦君） 先ほど森田委員が触れてましたけれども、私も特に関心を持ったのは天草宝島起業塾

「高校生コース」ということで、若い人たちに起業を目指すための教育、あとこれをやったことによって地元の愛着心が芽生えてきたといえますか、そういったものを感じたんですね。そういった意味では、地元で仕事をしようという、また雇用の促進にもつながるといふ、これはすばらしい取り組みだと思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

目的、経緯についてに限らず、今木戸岡委員も、また先ほど森田委員もおっしゃられました起業塾の内容等につきましても、その履修の内容ですとか、高校生の参加、その成果、さまざまございました。これらの点についても何か御意見、御感想等あればお伺いできればというふうに思います。

○委員（根岸聡彦君） 起業塾に限らず事業を行っていく、事業を継続していく上で必ず壁にぶち当たると思う

んですけれども、天草宝島起業塾参加者募集というチラシ、実施要領の中で、毎年同じテーマではないんだと思うんですけれども、何をしたらいいか見つからない、種を探しましょう、何をしたらいいかわからない、手を見つめましょう、うまいやり方がわからない、一緒に考えましょうというこの3つの起業塾のテーマというものがすごくインパクトがあるなというふうに思いました。

事業をされている方って別に遊び半分でやっつけちゃうわけじゃなくて、必死になって考えていろいろと行動を起こそうとして、それでいてなかなかできないとか、やり方がわからないとか、行ってそのまま時間だけが過ぎていってしまうというケースが非常に多いと思うんですけれども、そういったかゆいところに手が届くサービスがなされているんだろうなというところで、この起業塾、すばらしい取り組みだという感じを受けました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見……。

○委員（実川圭子君） 東大和の場合、特に高校生などは、じゃ、卒業して仕事をするときに東大和で就職しようかっていうふうに考えるお子さんがどれくらいいるのかなっていうのは、私は思うんですけれども、高校生

に限らず、やはり東大和は住んで、職場は離れたところだという方が非常に多い中で、東大和で仕事をしていくということの視点というのは、新設で仕事をするというよりも、私はイメージ的にやはり少しほかで働いて、東大和で何かやってみようかなということなのだろうなというふうに思うんですけども、以前からもやはり東大和で活躍してもらう人をふやしたいというのは私も思っていましたので、こういった大学の先生ときちんと協力しながら進めていくというのは非常に参考になるなというふうに思います。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 御担当の方もこのことはたしか強調されてたと思うんですけど、特にこの高校生コースの場合なんかは、別に直ちに若くして起業しなくてもいいんだと。いざというときにこのワークショップの経験を生かしてくれればいいっていうお話をされてたんで、恐らくそれはいつか、またどこかでっていうこともあると思うんで、そういう直ちに成果を求め、Am a - b i Zの場合は直ちに実際に事業をやっている方は1年、2年っていうそういう短期のスパンの中で成果を出していくってことは重要なわけですけども、この高校生コースに限って言うと、本当に10年、20年、または日本なり世界なりのどこかでっていう、そういう生き抜く力と言ったらいいんでしょうか、そういうことを長い目で広く成果を考えるってことでお話しされてたんで、そこはすごくいいなというふうに思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

ないようですので、それでは宝島起業塾につきましては、ここまでで御意見、御感想等まとめたいと思います。

次に、もう一つ御説明いただきました産業振興事業、このAm a - b i Zが始まる前の先ほど委員の中からもお話ございました公募制に関する産業振興事業、この事業についての御意見、御感想等伺えればなというふうに思います。

雇用創出、産業振興の基金の設置のこと、また地元雇用の創出を目的としたこと、補助金でなく委託としたことについて、さまざまお話あったかというふうに思います。これらの点も含めて、何かこの産業振興事業（公募型）に関する御意見、御感想などありましたら御発言いただければというふうに思います。

○委員（関田 貢君） この産業振興塾っていうことで、うちの中小企業で中小企業大学校があって、その大学校との連携が地域の東大和の商工会なら商工会の中小企業の起業者との連携がうまくいったとすれば、いって、例えば企業がこういうことで伸び悩んで、そういうときに企業診断士っていうのが普通入りますわね。企業診断士がこの企業について、こういうことをやればさらにこの会社がよくなるよっていう教育が天草市があるわけね。

東大和で置きかえたときに、こういうシステムがなじむっていうか、東大和でこういうレベルまで到達できるのかなというこの教育が、各中小企業の自分の会社の生産を高める、売り上げを伸ばすっていうことを他社のそういう中小大学校の優秀な中小企業の事例をたくさん教育するというそのシステムが、東大和は構築できてるのかなというふうな。企業のことは各自でもうけて、事業成績を自分たちの会社は会社で考えなさいよというスタイルが多いんじゃないかと。

こういうふうに天草の話を見ると、協働的な提案ですよ。京都大学がぐっと引っ張って、そこのいいニュースをうちの会社にも取り入れようっていう気構えがあるから、そういう売り上げをアップするために、この大学の先生をちょっとうちの会社へも講師で呼んで、その手法なり、ちょっと頭のトレーニングをして企業の成績アップにつなげようっていう機運につながって。そうしたときに、うちの中小大学校の利用の仕方

は、東大和の商工会はそこまで研究してないというような気がするんですね、自分では。

だから、その辺の天草のこういう事例集は、こういう地元癒着をするときのこういう関係を密にするときに、中小大学校の利用っていうのもっと違った利用はできないのかなと、こういう地元中小企業は、地元の利を生かして。地元の中小企業が困っているときに、本当に自分の企業が伸び悩んでるっていうときに、そういうアドバイスが、やっぱり企業人っていうのは孤独ですから、さっき根岸君が言ったように、事業者は孤独だからその孤独のときに、誰かちょっとしたアドバイスがあることによって、その企業が伸びるきっかけをつくってあげるっていうことを、俺は当市でもできないかなというふうに感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかにこの産業振興事業（公募型）に関しまして、何か御意見、御感想等あればお伺いできればというふうに思います。

○委員（実川圭子君） これは産業振興のうち事業者からの提案ということだったと思いますけれども、私はちょっとほかの視点で、市民提案で提案事業などができたらということはずっと市にも質問などもしてきたんですが、それがなかなかこの市で実現していかない中で、企業からの提案というのがどれだけこの市で受け入れる体制が、市のほうで体制があるのかっていうことが思うところなんですけれども、そういうところを実際にやってる事例っていうのがこうやってあってやってきたということを知って非常に良かったので、今後、また市と協議ができたかなというふうに思います。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） 産業振興委託事業ということで、今実川委員のほうからも出ましたけれども、当市の実情に合わせてみると、やはり市民提案型のいろいろな事業に結びつけていくことはできないのかなというところになるかと思います。

産業振興というのは、別に企業が行うことだけが産業振興であるということではなくて、広く市民一般の活動も産業の振興に通じていくものがあるというふうには思います。商工会のほうからいろんな提案があって、それを下がそれにフォローしていくということではなくて、事業者の人からこういうことをやりたい、ああいうことをやりたい、もちろんその商工会が中心になってそこが窓口本来なるべきだと思うんですけれども、それがかなわない場合には、例えば産業振興課のほうで何かそういった提案を受け入れて検討できるような、あるいは商工会につなげるような、そんな道筋が将来的にできたらいいのかなというふうには思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

もしないようでしたら、以上で終了させていただきます。

ただいま委員の皆様からいただきました熊本県天草市の視察内容についての御意見等につきましては、所管事務調査、市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについての報告書に反映させていただきたいと思っております。

次に、熊本県熊本市での視察内容について、御意見、御感想等を御発言いただきたいというふうに思います。

熊本市におきましては、熊本市西部環境工場の運営について視察をさせていただきました。この視察した工場の運営及びその事業内容等について、御意見、御感想をいただければというふうに思います。

運営形態が公設民営方式だったということ、また処理施設も見学させていただきました、その設備の状況、また最新の安全性・環境への配慮、また地域への貢献、プラザ機能、そして、大変タイムリーなことでもございましたけれども、熊本地震など、災害時の対応についてもあったかというふうに思います。

さまざまな点、幅広くとっていただいて結構でございますので、何か御意見、御感想等いただければなとい

うふうに思います。

いかがでございましょうか。

○委員（木戸岡秀彦君） 私は特に関心を持ったのは、今回この建設に当たって、地域説明会を2年間というこ
とで行ってきたということで、やはり地元住民の関係を重視して進めてきてるっていうのが、そういうところ
が感じたんですけども、やっぱり住民の意見を十分取り入れて、しっかりその上でしっかりもんで、そう
いった部分でも生かしてるっていうのをすごく感じたんですね。

あと、また、教育の場として、環境教育の場というより学習の場として利用してるっていう部分をすごく関
心を持ちました。

あと、先ほどの住民意見の反映ということで、工場の余熱を利用して地域に還元をしているということで、
これがしっかり充実してるんじゃないかなっていうふうにも感じました。

あと、ちょうど完成してすぐに震災があったということで、避難受け入れということで、マックス330人で
すか、受け入れたということで、さまざまな分野で活用できる、ただ単にごみ処理施設だけではなくて、幅広
い形でできる施設ということですごく関心を持ちました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） この施設、西部環境工場の施設はちょうど私たちが行って、平成28年3月にでき上
ったという新しい施設の中で、最新の技術が導入されたということで、ごみ施設の今までの焼却施設っていうの
は余熱利用っていうことで、水を沸かす、その冷却水を温水とか、そういうふうに展開してって、温水プー
ルの何だということで、水に関する温水関係の状態が長く続いてきた施設です。この新しい方式は、今度はそ
こに蒸気を利用した電気発電機が応用されたコンパクトなこういう施設っていうのは、最新の中ではすばらし
い施設、そしてあれだけコンパクトに電気の発電機もおさまってるということは大変な、もちろんいろんな経
験をされて、ああいう隣の施設をつくるだけの土地があったから十分研究も成果もできたんでしょうけど、こ
れを当市でやったら場所が限られてるんで、2階、3階の高層ということの中で、あるいは地中化を考えない
と、こういう発電機を備えた処理場っていうのはなかなか僕は難しいと思ってます。

ですから、こういうような施設見学ができたってことは、非常に最新技術を、これが新しいこれからの将来
を担う施設だと、そして灰の使い方も灰もごみとしてしないでリサイクルするっていう、いろんなコンクリの
接し方っていうんですか、そういう灰を利用したものづくり、リサイクルをつくるかということまで盛り込
んであるということでは、僕は機械的からそういうごみ処理施設を見たということで、最新の日本の本当の最
新の新しい姿を見せていただいたなっていうふうに関心しています。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 新設の工場っていうことで、まだ余り汚れてないっていうこともあるのかもしれないで
すけど、思った以上ににおいがしないんだなってことに、もう単純にそれに驚いて、やっぱり今の技術の水準
の高さっていうのを非常に感じます。まずその点に気がつかされたかなっていうふうに関心しました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） やっぱり新しい施設が見学できてよかったなと。もともと西部環境工場は小村大の更新
を考えたときに、それと同規模のいわゆる処理能力を持ったところでどこか新しいところがないかなというふ

うに探していたら、たまたま3月にオープンしたというところが見つかったんで、すごくラッキーだったというふうに思います。

やはり新しい施設ということで、森田委員もおっしゃってましたけれどもきれいでにおいしい。これが恐らく今の施設のスタンダードなんだろうなというふうには思いますし、プラザ機能の充実、委員長には非常に汗をかいていただいて、発電に御協力をいただいたわけですが、そのほかにやはりいろいろな説明のボードが九州というまち、規制もあるんでしょうけれども、日本語、英語、韓国語、中国語と4カ国語のボードが設置されていたというところ、あとは、木戸岡委員のほうからも言われましたけれども、地域住民、近くにいらっしゃる方々の福利厚生になるような、そういった機能もあわせ持ったそういった施設として稼働しているというところがすばらしいなと思いました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに。

○委員（実川圭子君） 一つは、やはり住民の方との話し合いに最初は当初3年ぐらいは時間をかけたっていう話で、最初にやっぱりかけ違ってしまうとなかなか進めなくなってしまうので、そこを丁寧にやられてきたなという印象がありました。

あと、予算などもお聞きしまして、しっかりやってる分、予算もかなりかけてるなっていうのが印象でして、でも、それが住民の方との合意のもとで進んでるならそれも一つの方法なのかなというふうに感じました。

地震の周辺の状況なども見まして、私だったらその軟弱なあ地盤のところにあれだけの施設を建てていいのかなっていうのは思いましたけれども、それが建物はしっかりやはりきちんと基礎を固めて揺るがないものになってたっていうところが、本当にきちんと事業も行ったっていうのが見てわかったので、そこを費用をどこにどういうふうにかけるかっていうのは、やはりその自治体ごとの考え方なのかなというのを非常に感じました。

○委員長（佐竹康彦君） そのほか、御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 私も帰り際にもう一つ東部工場があるっていうお話を聞いて、その東部工場は地震の関係でとまってるっていうことで、当初そこで燃やしたものを西部で引き受けて処理してるんだっていうふうには伺って、それでもあれだけの施設でちゃんと2つ分何とか処理し切れてるっていうのは、もちろん余裕を持ってつくってるんでしょうけれども、ちゃんとそういうところも見通してつくってるんだなっていうこと、改めて思いましたし、また地域の違うごみを搬入ってことになると、住民とのそれまでの約束の中でなかなか難しいっていうのがいろんな自治体の中で、特に東京はそうですけども、そういう問題もやっぱり出てくるんで、そこのところなんかはどういうお話があったんですかっていうことも聞いてみたんですけども、これはやっぱり同じ市内だからってことももちろんありますし、地震という緊急事態っていうこともあって、特に特別な御意見はなかったっていうふうには伺いましたんで、一定の人口を持った自治体ならではのメリットってこともこういうときにはやっぱり見えるんだなっていうふうに思いました。

以上です。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

そうしましたら、この熊本市の西部環境工場の視察に関します御意見、御感想等はここまででとどめておきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

次に、福岡県久留米市での視察内容について、御意見、御感想等、御発言いただければなというふうに思います。

久留米市につきましては、くるめエコ・パートナー制度について視察をいたしました。この制度に関しての御意見、御感想等伺いたいというふう思います。

基礎自治体として地球温暖化に対してどう対応していくのか、また市民協働でエコ運動を推進するこの仕組み、事業者の協力のあり方、リニューアル後の内容、例えばエネファームの設置補助などについて、またエコバッグの贈呈など行政側の努力について、また啓発活動推進について、さまざまな論点、いただいたかというふうに思います。

これらも含めまして御意見、御感想等、何かございましたら御発言をいただきたいというふうに思います。

○委員（森田真一君） エコ・パートナー事業は地元の商店の皆さんにも協力をいただいて、市民の方が少しでも温室効果ガスの削減に寄与するような取り組みをしていただいたらメリットを返してあげられるという内容なんで、非常にいい敷居の高くないいい取り組みだとは思いますが、一方で、私も似たような事業をしたことがあったもんですから、あ、やっぱり数年すると飽きが出てくるというようなこともあって、率直にそのことも語られていらっしゃったんで、繰り返し思い切って事業を更新していくというようなこともされていたんで、それは本当に地道にへこまずやってらっしゃるんだなというふうに思った次第であります。

ことはたまたま異常気象をこちらでも感じてたところですから、本来で言えばもっと切実さを持って我々が受けとめなきゃいけないことだって思うんですけども、なかなかそれを親身に伝える難しさっていうのがあるんだなっていうことを素直に思ったところです。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（実川圭子君） 本当に地道な活動だと思うんですけども、東大和でも地球温暖化の取り組みというのは市のほうの取り組みは計画もあって結果も数値が出てきますけれども、それを市民にどう広げるかっていうところが非常に私は弱いなというふうに思っていて、やはり目に見える形で何か成果を見せていくってことも一つ必要なんじゃないのかなと思った中で、やはりこういった本当に小さな取り組みですけども、それを確実にやっていくというのは一つ参考になったなというふうに思いました。

○委員（関田 貢君） 僕はこの久留米のエコ・パートナー制度っていうのは、京都の、国が、あるいは世界的な決め事、2008年の二酸化炭素の温室効果ガスの削減に国際的に協調して取り組むと京都議定書のその約束を市町村レベルで取り上げたということで、僕はそういう環境対策、地球温暖化という言葉がニュースで飛び交ってる、そういうことでは市民に少しでも我々がそういう燃焼させることのごみを出さないという啓蒙活動にはいろんなやり方がある。その中で、今ここで僕はマイ箸とマイバッグあるいは風呂敷って言っていました。僕はこのマイ箸っていうのが余り市民がなじまないのかなというふうに思うんですけど、このマイバッグとか風呂敷っていう提案されてました。この風呂敷はこれからは確かに小さく畳んで大きなものをくるんだときに、僕は最近女房に連れてかれるんだよね、運転手がわりに。そんで、買い物をさせられるときにアメリカ人じゃないけどやっぱり荷物持ちなんだよね。そうすると、荷物を買ったときに、女房からぽっと出されるのがマイバッグの袋なんです。あれをやると1円だか2円だか安くなるって言うんです。だから、そういう制度がようやく婦人の人に伝わってるのかな。

当市でも風呂敷というイメージは余り、あれは昔からすごい便利なんです。だから、あの便利をうまく表現して、当市の中でも産業祭で取り組んだら、風呂敷1枚でかなりなものがバッグで持って、バッグっていうのは一定のあれだから、風呂敷っていうのは大きさによってはいろいろあるんで、風呂敷っていうのはサイズが持てる範囲なんで、風呂敷なんで。だから、こういう風呂敷なんかを当市の中に取り入れて、このマイ箸っ

ていうのは効果が各商店もまだまだ箸を堂々と出す、そこまで意識がないんで、マイバッグは商店街とか、あるいはスーパーでもかなり浸透してますので、1円引くとか引かないとか細かいことを言ってますね、黙ってそばでついてると。そうすると、そういうエコバッグっていうのもやっぱり積み積み重ねれば確かにすごいなっていうふうに感じます。

ですから、僕はそれとエコバッグっていう一つの固定概念ができてるようなんで、こういうときに久留米市は風呂敷でやってるよと。この風呂敷が市が何かでPRで風呂敷を市民に渡せる何かがあればいいなと、それを僕は感じました。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（木戸岡秀彦君） このエコ・パートナーというのは、エコっていうのはかなり本当に地道な作業じゃないかなっていう、本当に持続してやっていかないと、なかなか意識がついていかないんじゃないかなっていうことを感じました。

私がちょっと注目したのはこの特典マップ、このカードがありますね、パートナー会員証っていう。結構市民って、特に主婦なんかは特典があると食いつくというか、先ほど言ったエコバッグをもらえるとって、そういうのがあると思うんですけども、たまたまこれは群馬県の何かこういうカードがあって、どこのお店に行っても割引とか何かきくってカードがあって、群馬県民ってかなりほとんどの人が持っているんですね。それを必ず利用してるっていう。そういった意味では、当市でもできるかわかんないですけども、各店舗にかなり営業に行ってる。でも、まだまだ地道な作業で店舗が少ないっていう。これをもっと広げていけば、かなり利用者が逆に会員になる人もふえてくるんじゃないかなっていうことを感じました。

あと、先ほど、今関田委員から風呂敷ってありましたが、なかなか風呂敷の使い方っていうのがなかなか認識がないという部分があるので、それをどのように、先ほど関田委員言っていましたけれども、市でこういう使い方があるんだっていうものを広めていくと、いい意味で広がっていくんじゃないかなっていう。ちょっと脱線したのかもしれないですけど。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） 僕はカードって、この東大和で、いろんなカードを僕もカードを使わせてもらって、一つはTカードなんですね。正式名は何とかと、僕はただガソリンスタンドへ行くとかやってる。それで、僕がボウリング場をやっているとこもその会員になってる。だけれど、使えるとこと使えないところがあるんですね。そうすると、今度は違うところで、例えばなぜセブンイレブンで同じものが売ってるのに、セブンともう一つファミリーマートって僕がよく行くところであるのに、女房はセブンイレブン、こっちへ行かないんだと、ファミリーマートへ行くんだと。そうしたときによく聞くと、みんなカードを持ってるカードだらけなんだよね、財布を見ると。女性の人はよく研究してるんですね。

だから、そういうふうなカードってさっき木戸岡さんが言われましたけれど、カードを出すって言って、そのカードがいろんなレベルでかち合ったっていうから、あれを統一できれば、本当に市内の中では1枚のカードで統一できちゃ、本当にTカードならTカードで統一できると、そういうことで発想がいろんなお店のカードって、みんなセブンイレブンはセブンイレブンで持っていて、みんなそれぞれ縄張り争いしてるんだね。だから、うちはカードがないからそこに行かない。ファミリーマートのカードがあると。じゃ、そこでカードをつくったらいいじゃないって言ったら、そんなカードだらけになっちゃうっていうわけ、財布が。だから持てな

いと。

だから、そういうカードって、便利なんで無料でつくるカードってすごくあるんですね。どこでも入れてくれるんですよ。それと、そのカードだけ持って歩くと、財布の中がカードだらけになっているんだよね。だから、そのカードがもう少し改善できるとすれば、こういうのがもっともっと寄与するんじゃないかなと。だから、カードの統一論っていうのはできるもんかねなんてことは不思議に思ってます。

○委員長（佐竹康彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 今回、カードそのものというよりは、どうやって温暖化対策を進めていくかという観点で事業されているわけでありまして、そういう意味でいうと、我が市も予算の制約がやっぱり実際あるわけですけれども、そうはいつでも住民の皆さんからは近隣市に倣って、例えば太陽光発電の助成事業をつくってほしいとか、それにとどまらないものだとは思いますが、具体的に施策に展開していくということは早急に求められるのかなっていうことは、この際改めて確認をしておくほうがいいのかなっていうふうに思いました。

ということと、それから、ちょっと本当に脱線して申しわけないんですけど、先ほどの風呂敷のお話に触発されてってことですが、伝統産業の関係で、最後に久留米かすりのお店に連れてっていただいた次第ですけれども、そうやって旧来あったものを改めてそういうエコロジーの観点から見直して、生活やまた仕事に活用していくっていうことは、やっぱり久留米の皆さんもいろいろ考えていらっしゃるのかなというふうにあちらのお店に行って思った次第です。

私はビジネスバッグがわりで久留米かすりのバッグだとか眼鏡入れだとか、今回ちょっと試しに使わせていただいたんですけど、使ってみると意外と便利で、こういうビジネスシーンに応用できるような伝統的なものをどんどんいろいろそうやって研究してくっていうのはすごくいいことなんだなっていうふうに思いました。

以上です。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに何か御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（根岸聡彦君） エコ・パートナー制度ということで多くの委員の方がおっしゃってましたけれども、最初、マイ箸、マイバッグ、そして風呂敷と。マイ箸というのは、箸を持ち歩くということはなかなか今難しいのかなと。いろんな食堂に行っても、最近は割り箸から洗って再利用可能なお箸に変えているお店もありますので、そういったところでお店独自のエコ活動というのが少しずつ浸透してきているのかなというふうに思います。マイバッグについては、スーパーなんかでレジ袋を要らないと言っていた方にはポイントをつけるとか、幾ら割り引くとか、関田貢委員もおっしゃってましたけれども。

風呂敷については、なかなかちょっと難しいかなと。今風呂敷って知らない人が結構出てきてるんじゃないかなと思うんですね。風呂敷ってどう使うのという、そういった周知から始めなければいけない。一つの案としては、例えば産業まつりとかいろんなイベントで、いろんなものを例えば風呂敷にくるんで、縛って、どれだけたくさんものを入れられるかという競争をしてみたりとか、そういうようなことから始めていくしかないのかなというふうに思います。

久留米市の取り組みは、確かに姿勢としてはすばらしいものがあるんですが、ちょっと30万人都市の事業規模からすると、もうちょっと周知徹底に力を入れたほうがいいのかなと。その場では言わなかったんですがAmabizに相談をされてはいかがかというような感想も持った次第です。

○委員（森田真一君） 久留米市の皆さんの名誉のために申し上げておきますけど、1人当たりのごみの排出量、久留米はどれくらいあるのかなって、私、ちょっとさっき見てみたんです。そうしましたら、大体ざっくりと言うと700グラムぐらいで、我が市が当面目標にしている量とほぼ等しいぐらい、ちょっともしかしたら私たちよりも先行してるかもしれませんが、日ごろからそういうごみ削減みたいなことはもうよく身につけていらっしゃる土地柄なのかなと思いましたんで、そのことを一言添えておきたいと思います。

○委員長（佐竹康彦君） 事業ごとによって、なかなかもうちょっと頑張ったほうがいいものと、これは当市でもそうですけれども、進んでるところともうちょっと頑張っていかなきゃいけないところ、いろいろあるということわかりました。

ほか何か制度についての御意見、御感想等ございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） ちょっと総論的になるんだけど、やっぱりこういう取り組みの姿勢は国の京都議定書が国でこういうふうに行った、地方レベルでこういう温暖化のことを取り入れて、エコバッグを事業として進めていくっていうことは、これは評価しなきゃいけないです。そういうことがあってマイ箸があったり、あるいはエコバッグができたたり風呂敷が出てきたという観点は、やっぱりそれが事業がどう取り組んでいくかということですから、そこに市が財源があれば、いろんなものをサービスでどんどんくれば寄ってきますよ。

だけど、財源が限られてるんで、その中でそういう温暖化を少しでも下げようという市民意識が国の制度が、市が取り入れたというふうになって、その意識でこれだけの事業ができてるということは、僕はすばらしいと思いますよ。こういう事業の取り組みが当市の中でもまねしなきゃいけないですよ。国がやってるのは国だと、市は市だということで切り離して、いつの間にかマイバッグが入ったり、こういうことはやるといいですねっていうんじゃなくて、そういう流れがあるからこそ、エコバッグでやらなきゃいけないとか、風呂敷が必要なんだとかという流れを系統立てて、市が取り入れなきゃいけないということは、これは久留米市に当市も学ぶところがあるんですね。そういう意味で感想をさらに述べました。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに何か。

○委員（実川圭子君） 先ほどもちょっと市民にどう広げるかということで、今関田委員がおっしゃったようなことは、東大和も実は環境基本計画の中に、後ろのほうに市民の行動ということで、一覧でばあっと書いてあるんですけども、もちろんこのエコバッグとか、そういうマイ箸っていうのも書いてあるんですけども、それをどう広げていっていかってということで、やっぱりこういう登録制度とか、こういうパートナー制度っていうことでやってるところが一つ参考にしたいなという点だったと思いますので。今後、東大和でも考えていけたらと思います。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見等ございますでしょうか。

ないようですので、この久留米市の行政視察に関しましては以上で終了させていただきます。

以上で閉会中の特定事件調査（行政視察）についてを終了いたします。

ここで10分間休憩いたします。

午前10時42分 休憩

午前10時50分 開議

○委員長（佐竹康彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○委員長（佐竹康彦君） 次に、所管事務調査の進め方について、本件を議題に供します。

所管事務調査、市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについて、今後の具体的な調査の進め方について、本日御協議をいただきたいと思います。

正副委員長といたしましては、12月中の委員会で市長部局の主管課に説明を求め、1月中の委員会で他市と東大和市の事例の比較検討を行い、2月中に調査を取りまとめ、3月の本会議において所管事務調査の最終報告という流れで進めてまいりたいと考えております。

それでは、ただいま申し上げました正副委員長案について、またそのほかの御意見、要求されたい資料等がございましたら御発言をお願いいたします。

○委員（根岸聡彦君） 市民・民間の力を活用した産業振興の取り組みについてということで所管事務調査を進めていくわけですが、それに当たりましては、やはり関係部署から資料を要求することを提案したいと思いません。

3点ございまして、1点目は東大和市創業塾の進捗状況と今後の方向性について、2点目は商工会やJA、金融機関との連携について、3点目は既存の市内事業者に対する事業の存続・発展に関する行政のかかわりについて、これらの資料を要求したいと思います。

委員長において、よろしくお取り計らいのほどお願いいたします。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（関田 貢君） 3番のところ、商店と事業等と売り上げってということで、僕はここに地場産業で農家の売り上げが大分伸びてますよね、地場産業というか店先販売。そういう販売の箇所、トータルでいいから、東大和はそういう農家団体の売り上げ、直販でそういうことの売り上げがどれくらい伸びてんだらうということで、何か所あって全体でどれくらいっていうぐらいいはわかってもいいのかなと。個別に知る必要はなくて、何か所、直販が今出てやってるか。そういうものが地域の中で一つにまとまって、今の道の駅じゃないけれどそういうところにつながるとか。今そういう直販のグループがイトーヨーカドーとか、あるいはその近所の商店に売らせてもらえるところがあれば何か所とかそういう売り上げをやってる。そういうことにもつながって、市内の業者が存続する、発展する、売り上げを伸ばすという意味からも、そういう構造、農家団体が地場産業で店先販売してるそういう売り上げが何か所あってどれくらいになってて、ことしは、例えば100万だったのがこの実績を見たら100万まで売り上げが伸びてきたとかっていう実績も見たいなというふうに思います。

どうですか、提案です。

○委員長（佐竹康彦君） ほかに御意見等ございますでしょうか。

それでは、今後の所管事務調査の進め方について、ただいま御協議いただいた中で、根岸委員及び関田貢委員から、東大和市創業塾の進捗状況と今後の方向性について、商工会やJA、金融機関との連携について、既存の市内事業者に対する事業の存続・発展に関する行政のかかわりについて、また、地元農家の直販の箇所、売り上げに関する実数について、この4点についての資料請求がございました。

お諮りいたします。

ただいまの資料を本委員会として要求することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

なお、御用意いただく資料につきましては、可能な範囲でお願いしたいと思います。

また、所管事務調査の進め方につきましては、ただいま御協議いただきましたとおり進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

お諮りいたします。

本日の調査はこの程度にとどめたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐竹康彦君） 御異議ないものと認め、さよう決します。

○委員長（佐竹康彦君） これをもって平成28年第7回東大和市議会建設環境委員会を散会いたします。

午前10時55分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 佐 竹 康 彦